

小城市行政改革推進委員会が開催されました

8月18日（金）に平成29年度小城市行政改革推進委員会が小城市役所西館大会議室で開催されました。今回の委員会では第4次小城市行政改革大綱（案）について事務局より説明を行い行政改革推進委員より質疑が行われました。

《議事》

（1）議題（第4次行政改革大綱（案）について）

●第4次小城市行政改革大綱（案）について事務局より説明（～P4）

〈委員意見〉前にあるパワーポイントの図と大綱の中にある図は違うが、どちらのほうがいいか。目標達成率は文章の中にもないので、むしろ達成率が入っているパワーポイントの図の方がいいかもしれない。

〈委員意見〉（大綱の図の）表の一番右に効果額が入ってないですね。

〈委員意見〉（パワーポイントの図には）効果額もだし、何パーセントという達成率も、下に入っています。文章を読んでも、中には達成率というのは書かれていないので、こちら（パワーポイント）の表の方がいいのではないかと思います。達成率という列もできていいのではないですか、達成額も全部入れた方が。

〈事務局回答〉表についてはなるべく表を見ただけでわかるように詳しくしたいと思います。

〈委員意見〉ものすごく単純なことでいいづらいけれども、助詞の「は」の使い方。「は」がつながっていくと気持ちが悪いので、精査してください。

〈事務局回答〉文章はもう一度精査させていただきます。

●第4次小城市行政改革大綱（案）について事務局より説明（～P5）

〈委員意見〉必要性ということであれば最初になぜ必要かということを書いた方がいい。つまり第3段落の内容を簡潔に2行ぐらいで書いて、このために必要ですって書いて、その背景にあるのが人口減少です等、諸事情があるという書き方をしたほうが読み手には非常に分かりやすい。人口減少はなぜ行政改革に結びつくのかと考えなければならないと読む方にはづらい。内容的には問題はない。

〈委員質問〉文書の最後の所にその対策として2つ挙げられていますけれども「小城市人口ビジョン」とスライドの（パワーポイント）方にある「小城市総合戦略人口ビジョン」は一緒ですか。

〈事務局回答〉一緒です。

〈委員質問〉名前が違うので、どちらが本当ですか。

〈事務局回答〉小城市の人口ビジョンということで「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を立てるときに小城市人口ビジョンを作成したので便宜上そのような表記をしています。

〈委員質問〉 ここでだけ（パワーポイント）「小城市総合戦略総合ビジョン」で正式名称は「小城市人口ビジョン」でよろしいですか。

〈事務局回答〉 はい。

〈委員意見〉 総合戦略、人口ビジョンというのは、将来の小城市は例えば、何十年後は 4 万人規模で維持すると書いといて、それでもなおかつ、その規模だったら現在の小城市の財政状況が持たないということが分かっているんで、1 人 1 人の生産性の向上や節約をやらなければいけないということを最初から書いておかなければならない。

〈事務局質問〉 人口の将来像をいれておくという意味でよろしいですか。

〈委員意見〉 いれておかないと、一体何のことという話になりかねないので。

〈事務局質問〉 もう少し、人口ビジョンのことについて入れたほうがいいと。

〈委員意見〉 コンパクトさを求めるのであれば、省いてもいいですし、注釈で後ろにつけてもいいと思います。

〈事務局質問〉 人口ビジョンで推計した人口がこうなると書いているけれども、それを総合戦略で、ここまで維持していきたいと計画をしているという説明を入れた方がいいという事ですか。

〈委員質問〉 ここだと何年後になるのですか。

〈事務局回答〉 平成 72 年になる。

〈委員意見〉 45 年後にも 4 万人規模を維持する目標を立てているという説明をした方がいい。

〈事務局質問〉 文章にいれるか、注釈にするかは考えますけど、それを説明するものがなければいけないと。

〈委員回答〉 説明するものがないといけない。

〈委員意見〉 大綱は市民の人皆が見るものですよね。そしたらやっぱり文章が難しいというのと、皆さんに言われなければ気づかなかったですけど、人口ビジョンと、総合戦略がカギかっこでくくってあるので 2 つのものという気がするし、読んでもよく分からない。

〈事務局回答〉 わかりやすくしたいと思います。

〈委員意見〉 読み手を意識することが大切です。

〈委員質問〉 ちなみに 45 年後ぐらいは何万人になっていますか。

〈事務局回答〉 小城市でつくったのは平成 72 年で 37,000 人になっています。現在は約 47,000 人なので 10,000 人は減るだろうと、そこをなんとか 40,000 人を維持したいという戦略を立てています。

〈委員質問〉 市ってだいたい何万人いたらなりたっていけますか。

〈事務局回答〉 規模は分かりませんが、構成の割合が非常に重要ではないかと思います。高齢者が多く、50 パーセント越していると生産人口が少ないということになりますので、税収、働き手、担い手がない形になります。人口の数より割合が重要かと思います。

〈委員質問〉 では割合というのはどれぐらいがいいですかね。

〈委員意見〉ピラミッド型が一番いいですけど、あるいはできるだけ上が小さい、支える生産年齢のボリュームがちゃんとある、ところが一番下が少なかったら逆ピラミッドになる。規模ではなかなか言えないですけども、例えばこういう話だったらできます。あまり人数は関係なくて、例えばGDP、小城市の経済活動の全体のパイがあって、小城市で働いている人たちがいて、その人たちがもらっている給料の総額、そのうちの4割が全経済活動の内の所得としてみんなに回っているとします。その4割を一家4人が500万円で生活するとして計算すると、必然的に何人の人間がそこで生活できるかというのがでてくると思うので、そうした計算の仕方もあります。多分そういうのを基に人口のやつは計算をされたのではないかと。

〈委員意見〉表現の仕方ですけども、市民の人が見るのであれば、この（行政改革大綱（案）の）表より（パワーポイント）のグラフの方が見やすいと思います

〈委員意見〉表と一緒にしているグラフの方がいいですね。

〈事務局回答〉グラフについては分かりやすく作り直します。

●第4次小城市行政改革大綱（案）について事務局より説明（～P6）

〈委員意見〉文章校正の問題ですが、必要性って言って、まず人口が減っていきます。だから税収が減っていきますって言うのを書きますよね。その次に6ページに入ったら財政状況、歳入面としてはこうですよ。歳出面としてはこうですよ。財政的にも引き締めないといけませんよというような書き方になっています。今みたいに説明しなければ分からないわけですよ。前のページからのつながりを意識した書き方をしていただいたほうがいいですね。

〈委員意見〉それと表は入っていますが、金額的にいくらが減るというのがあったほうがいいのかなと。

〈事務局回答〉毎年算定される額が違うものですから、グラフで表すと過去右肩上がりで推移しております。毎年制度が若干変わるので、実際27年度から理論上減り始めていますが、そこは数値的にはなかなかグラフとかしても見えない部分がございますので、数値的に表するのは非常に難しいのではないかと思います。あのここは制度的な理論上の話になっております。

〈事務局回答補則〉交付税の算定基準が毎年変わりますので、金額が上下してしまい、理論値でいけば段階的に行くだろうという事をご説明できるのですが、数値がどうなるかというと、増えたり、減ったりすることを繰り返しながら減っていく。全体的に減っていくという形になるので、その数字がその年々で違うので数値として出しづらいものがあります。

〈委員意見〉読み手としてはこれでどのぐらい減るかが、分からない。

〈事務局回答〉例えば直近の年度のある時点、例えば今年度の捉え方をすると数字上は出せますが、過去の推移という見方をすると比較が難しいものがありますので、前で示して

いるグラフの上の方の部分でいきますと、左側の旧 4 町の部分でいくとこの金額、小城市だけで行くとその金額という数字は今年度直近の数字でいえば出せます。

〈委員意見〉それでもいいと思います。いくら減るのが全く分からないですね。

〈委員意見〉交付税の話になると市民の皆さんには分かりにくいと思う。理屈上はこうです、ではマクロでは減るのかというと、おっしゃったようにその年々の財政事情で交付税算定されるからですね。これを出すというところの意味をもう少し考えたらいいかないかなと思いますね。単純にいままで 10 貫っていたところが数年後には 0 になりますよ。そしたら、じゃあ、入るお金が減るのかという風にストレートにみなさん思われますよね。だからそういうところをアナウンスしたいのかという話だと思います。

〈事務局質問〉小城市が依存財源として、交付税に頼っていることを言わなければいけない、その交付税が減っていくという所で。

〈委員意見〉理屈上は交付税が減ることですね。ただ、現実減るかどうかはその年々の算定で分からないから、おっしゃりたいことは交付税とかに頼らないで、自主財源を増やしたい意図があるのかなという風に受け取っていますけど。いわゆる依存財源が多いので、自主財源を頑張ってもう少し増やしましょうねという意味で、黙っておくとこんな形でほんとに減るかもしれませんよというのをアナウンスしたいのかと思うんですけど。ただ、専門すぎて分かりにくいのかなという気はしますけど。

〈委員意見〉結局この部分ですね。この部分が減るということですね。最初の文章の所が分からなかったのですが、合併特例措置の地方交付税の特例算定期間が終了し、なにが縮減されているのか、主語がないですね。平成 27 年度から合併算定外適用額部分が縮減されて小城市としての算定に移行するってということで、そこを入れていただいた方がいいかな。

〈委員意見〉文章が全部点で続いて長いから簡潔に句読点できられた方が良いでしょう。やり方としては、歳入面では 4 つの懸念があります、とか書いていくと 4 つ見えてくるので。あともう 1 つ、長引く景気の低迷って入れておいてもいいのか。そのものずばりは人口減少、生産年齢の減少によって税収の増加が見込めないことですね。

〈委員意見〉合併算定適用額というのは交付税全体の何割をいま占めているのでしょうか。

〈事務局回答〉小城市が受けている額でいきますと 15% くらいです。

〈委員質問〉その 15% くらいが段階的に減っていくということですか。

〈委員回答〉はい。

〈委員意見〉最初の方は大丈夫ですか。ここも書き方がちょっと。懸念材料がいくつあります、みたいに、歳出面での懸念材料は、というふうに書いていった方が良くないかな。

〈委員意見〉さっきも地方交付税のイメージが無いのではないかというお話があったのですが、結局市の財源うちの何割を占めている交付税が 15% 減らされると、交付税が市の財政にとってどれだけのインパクトがあるかというのをに入れておいたほうが、市民の方から

すると、税収があって交付税があって、だけど（交付税は）すごく大きいというのを挙げておいた方が、それが減らされる、大変だというのが伝わってくるのではないかな。そもそも交付税が何かっていうところから。細かく書かなくても良いけど、税収、小城市の財源のうちの何割を占めている交付税が 15%くらい減るといような書き方をしたほうが、インパクトがある。

〈委員意見〉小城市の財政状況だけでは見えないものがあるので難しいのは難しい。公共インフラ等は別会計なので。例えば一例として、平成 28 年度は地方交付税を〇〇もらっていたが〇%削減されると市の財政規模が〇億円減りますという書き方だったら市民の方もわかりやすい。

●第 4 次小城市行政改革大綱（案）について事務局より説明（P7～8）

〈委員意見〉最初のところ解らなかったですよ。何を言っているのかなと。策定における基本的な考え方の直後の第一段落、連動性が低かったというのはどこまで連動性が低かったのか言いたいのかというのが解らないので。おそらく第 3 次までは連動性が低かったから第 4 次からは連動性を付けていきたいと。第 3 次行政改革と総合計画の連動性をネガティブワードは使いたくないが念頭に置かず作られてきたと言っておいて第 4 次では、という書き方になるのかなと。言いたいことはただ一つ、第 4 次からは総合計画と連動させます！と言いたいだけですから。第 2 段落の意味もよく分からなかった。第 2 次総合計画の施策外「計画推進のための行政経営」とは何ですか。

〈事務局回答〉10 の政策をするための行政経営という形で「行」というのを作っていてそれを言いたい。

〈委員意見〉読み手の事を考えて、総合計画の体系には入っていなかったとか書いた方が良いのではないですか。大綱の基本体系としというのもよく分からない。

〈委員意見〉確認ですが、この表でここに入れているけど総合計画の体系には入っていないという事ですか。

〈事務局回答〉いいえ、政策体系の一部には入っています。

〈委員意見〉総合計画に書かれているということですか。

〈事務局回答〉詳しくは書いていませんが、政策を実現するために行政経営はこういうことをしますという大まかな部分書いています。

〈委員意見〉おそらく、施策外とおっしゃいましたけど、まさにあのおりだと思います。10 の政策を進めていくための行政経営のあり方の部分と思うので、施策外と書いてしまうとどうなの、と。総合計画の中でその体系を進めていく行政経営の方針として書かれていてその部分を膨らませていこうというご主旨ですね。

〈委員意見〉P7 では施策外、P9 では政策外になっている。第 2 次総合計画をマネジメントするためのものなのでそういう書き方のほうがいいのではないのですか。簡単に。

〈委員意見〉私も読んでいて総合計画との繋がりが全く分からなかった。どこにも上がっ

ていないのが人づくりとかあって。

〈委員質問〉総合計画をマネジメントする位置づけなので、ある意味上位ですよ。今の言い方だと。総合計画をマネジメントする様になるのですか。どちらが先かわからないですが。

〈事務局意見〉総合計画をマネジメントするというより、進める為に内部でこういうことをやっていこうということなので。総合計画があったうえでの行政改革です。

〈委員質問〉総合計画が一番上なのですね。

〈事務局回答〉はい。それを進めるため、行政経営のために何をやっていくのかと。

〈事務局回答〉別機構でもないし、言い方として難しいですね。先にいきましょう。

●第4次小城市行政改革大綱（案）について事務局より説明（P9～10）

〈委員質問〉人事管理体制とか仕組みを構築するのであって管理を構築しない。人事評価制度は構築しているでしょ。今からですか。構築中ですか。

〈執行部回答〉人事評価制度は導入したばかりですので、人事管理システムをさらに進めていくということで書かせてもらっています。

〈委員質問〉人事評価制度は何年から導入されているのですか。

〈執行部回答〉昨年（H28）からです。平成19年度から試行はしてまして、法律が平成28年度からで本格実施は昨年度からです。

〈委員質問〉昨年度からですね。行政経営評価とか反映をされているのですか

〈執行部回答〉処遇反映は検討中です。

〈委員意見〉違和感があります。OJTとか研修をやりますという話で、「また」からあとは人事管理ではないですよ。人事管理は「また」の前までで、職能みたいなレベルアップしていくという話しは人事管理ではない違和感がある。（中の柱を）全部2つで行くという気持ちからすると、3つもあるからいいのか。

〈委員意見〉こちら（総合計画の政策外）にしばられない方が良いのではないかと私は思っているのですが。こちらの総合計画の方のこれ（行）を基にやりますって言っているでそれに併せてその中に入れているのですが私は2の行政改革の推進の所とか、いくつか気になる場所があったので、これを基にするけれども、せっかく大綱を作るのであれば、これを基にしているのは間違いないのでだけでもしばられないという形で、例えばいまの1のところを1-（1）（2）（3）としても良いのではないかなという気がします。どこまでそれを特別にやるのかというところで変わってくるのかと思います。

〈委員意見〉人事管理を持ってきているから厳しい。

〈委員意見〉項目もそれに併せて…

〈委員意見〉人事管理は本来であれば働いている人の評価、正しい評価があって、なおかつ職能があって、そのためのツールとして人事評価制度があるということなので、そこを人事管理、人事評価というのを持ってくる、人事の評価制度というよりはきちんと働きを

評価します。ということが書かれていた方が良いのかなという気がします。適正に働いている人を評価します。能力を向上させるための諸研修を行います。その 2 本ですよ。それはご判断ください。総合計画の P63 にしぼられるのかしぼられないのか。

〈執行部意見〉 つくりとしては、総合計画のつくりが施策を実現するための基本事業を設定しています。この人材育成の推進については大きく 2 つの基本事業ということで位置づけをしています。先生が言われるように能力開発の部分をどうするかというのは、厳密にいうと 2 つには分けづらいというところがあったのですが、その部分も必要だということで上の方の人事管理の構築の部分に、人を養成するということも力を入れていかないと評価とかそういったものにもつなげにくいということがあって、そっちに入れ込んだような形になっています。どちらにするかということだと思います。この総合計画の体系に合わせるということであれば、この 2 つにしとかなないと整合性が取れない。合わせるという事を強調しておりますので。

〈委員意見〉 おまかせします。

〈執行部質問〉 はい。合わせるとしたらそこが文言をとるしかないということですか。

〈委員意見〉 いえ、そうではなくて、3 つにしたらどう、というご提案です。総合計画との齟齬が生じるっていうのであれば 1 (行-1-1) の中に入れていただいて良いのではないですか。総合計画にケチ付けたらいけないと思うけど「人事管理」という言葉を最初に持つてくる自体が、あまりよろしくなかったのかなと。管理ではなくて、生産性を上げろということが前提にあって、ちゃんと働く人をちゃんと評価します、というのが大前提であって、スキルを向上するとか研修に積極的に参加することによって個人の生産性を上げていくというのが目的なので。

内容ですね、文章の方少しいじれば、そういう方向に変えていただきたいという要望です。

〈委員意見〉 特にございませんか。では 2 番の行政改革の推進の方をお願いします。

〈委員意見〉 先ほどこの表に、これを基にするのはいいけれどもこの言葉にしぼられると、2 番で行政改革の推進となっている。行政改革大綱の中で行政改革に例えば人事の育成とか行政の経営であるとかというのが入ってきているのに、なぜここだけ基のものが入っているのか。内容的にはいいですが。

〈委員意見〉 はい。で、いまの（総合計画に合わせるのだから）どうしようもないですよ。だから内容で見ていただくしかないですよ。

ここ (2-2) はもう書き換えているじゃないですか。(2) の行政改革の推進になっていて、総合計画は改革改善の推進ですよ。

〈事務局回答〉 誤りです。

〈委員質問〉 どっちですか。

〈事務局回答〉 改革改善の推進の方が正しいです。

〈委員質問〉 業務の改革改善ですかね。

〈委員意見〉業務の改革改善ですか。

〈委員意見〉総合計画に出ているから、変えないのなら譲りますけど、譲りますが文章の中で読み取ってくださいと。

〈委員意見〉民間活力を導入するなど、民間活力の導入により、とか。踏まえるわけではない。

〈委員意見〉多分なにか躊躇されたのですよ。書いたらしないといけないから。踏まえとって、そういう手法もあるからと、躊躇されたのですよ。

〈委員意見〉でも実際、指定管理者制度とかされていますよね。

〈委員意見〉なかなか同じような言葉が並んでいるので、分かりづらい所もあると思う。この政策で小城市さんがおっしゃりたいのは行政を進める上で何が大事かということ、さきに戻りますけれども、まずは職員の資質をどうやってあげるかということと、2番目でおっしゃりたい事は、やはり日頃の仕事とかやり方ですね、仕事が本当に効率的なのかどうかとかですね、無駄がないのか、あるいはいまおっしゃったようにアウトソースみたいなのところも踏まえて考えなければいけないとかというところで、あとのあと出てくるけど3番と4番はまさしく金と物の世界の所をどうするかというところを多分4つに分けて示したいというのが主旨かなと思っております。ただ用語的に被っている部分があるので、そこが解りづらい。ここの文章を見直す事ができるのであれば、文章も少しかみくだく様なやりかたもあるのではないかなと思います。

〈委員意見〉善処してください。次、ないですか。3番。ご自由に。

〈委員意見〉何度も申し訳ないのですが(1)のところ点が入っていますが、結局前半は財源の確保ですよ。それで、後半がいきなり「スクラップアンドの視点を持って」と書いてあるのが、これがまさに支出を減らすということだと思えるのですが、これが支出を減らす方法の一つとして、いままでやっていただけやめましょう、それもあるとは思いますが、それだけじゃないと思います。支出を減らす方法が「スクラップアンドの視点を持って」と、そこだけに集中しているのが少し気になりますね。

〈委員意見〉スクラップアンドビルドというのは、新たな事をやりたいのに全体のパイは一緒にしといてお金は減らしませんということです。

〈委員意見〉そういう意味ですか。何か事業を新しくやっていくには、こっちを減らすという話だとは思いますが。(事業を)続けるけれども無駄な出費を抑えるというのも有りうるわけですよ。だけど、それはここ(歳入歳出の適正化)には入ってこないのですか。

〈委員質問〉入れなくてははいけませんよ。歳入歳出の適正化というのは、要するに財源の確保とは、そのお金を持ってくるという話ですよ。お金をもらってきて健全な財政運営っていうのか、もらえなくなったら終わりじゃないのかな。適正化とは。地方交付税をもらわなくていいような事自体はないですか。

〈委員意見〉玄海町ですかね。

〈委員質問〉玄海町は赤字で、もらうようになりました。ここは何を言うのか。無駄を減

らしますと言うのか。それ以外を言うのか。財源の確保に努めるというのは、現状のパイは減らしません収入減らしません、という話に結びつきますよね。スクラップアンドビルドも現状のパイは減らしません。そうではなくて、現状やっている事をもっと生産性をあげて少ないお金で出来るはずだ、というような視点で話をしたいのか。例えばその、さっき出てきていた、この中には無いけれども民活の導入をやって、市が直接やるよりも安く済んだとか、という話になりますよね。ここは私どもが、何が言いたいかではなくて、それこそ行政サイドでどういう事を言おうとしてこれを作ったかでまとめられたらいいのではないのでしょうか。

〈事務局意見〉先生がおっしゃるように、何を求めているか、結局小城市として財源を増やすのか、減らさないようにするのかを決める。

〈委員意見〉それとも現状維持なのか。

〈事務局意見〉維持なのかというのを明確にした方がいいと。

〈委員意見〉この文章の中に何を入れるのかを考える。やっぱり目的がないといけない。

〈事務局意見〉全てやりたいと思っています。自主財源確保もやりたい。お金の無駄も抑えたい。新規にやりたい場合は古いのをやめていきたい、ということ全てを網羅したい。

〈委員意見〉網羅しているのですね。

〈事務局意見〉したいと思って作っているので、そこを特化するか、

〈委員意見〉書きたいのであれば、いろんな修飾語を全部取って、例えば、自主財源の確保を行います。スクラップアンドビルドでお金がかからない状態でサービスの質の維持を図ります等、個別に書く方法もある。もっと節約しますとか、そのように書くとすべてを網羅できる。結果として収支のバランスを均衡にできますという事で、あまりにやると他とのバランスが悪くなるので、そこは考えないといけない。やるとすれば修飾語をとるがいいと思います。結局財政運営は、上の 2 行を読んだところで分かるので、それを抜きにすればこういったことをやっていきます、と羅列していいと思います。

〈委員意見〉(3) なのですが、広域行政の推進は、多様化する市民ニーズに対応するにつながらないので、そこは消していいのではないですか、「広域での効率的で効果的な行政運営の可能性について検討します」という、結局広域によることで効率化するという事だと思うので、(4) はそれぞれの要求に応じてという事だと思うのでよく分かるのですが。

〈委員意見〉(2) 番ですけど、「公共施設やインフラなどの全体の把握と」だったら、今把握していないのかと捉えてしまうかと。

〈事務局回答〉去年初めて全体像を把握したという状態です。

〈委員意見〉そうなのですか。

〈事務局回答〉ものがあること自体は分かりますけれども。

〈委員意見〉どういう状況か。

〈事務局回答〉台帳に落とし込んで、それがどれぐらいの耐用年数があるのか、いわゆる固定資産と同じような状態でみるのかというのを去年調査しました。

〈委員質問〉長寿命化計画を去年作ったという事ですか。

〈事務局回答〉いえ、公共施設等総合管理計画を作成しました。

〈委員質問〉ファシリティマネジメントは今考えられていますか。

〈事務局質問〉個別計画ということですか。

〈委員質問〉：個別計画です。

〈執行部回答〉小城市の公共施設総合管理計画は28年度末に作成いたしまして、29年からそれに取り組んでいくという計画になっております。小城市の計画といたしましては長いスパンで25年の計画になっておりまして、それについては個別計画の策定が必要であるという事で、各課の方に個別計画の策定については指示をしている所ですけども、どうしても規模とか、施設の数とかの問題がありますので、今年度から少しずつ必要性の高いものから個別計画をまず作るという事で今進めている所です。

〈委員質問〉(4)の表題が行政サービスの検討とありますが、下の説明が提供しますとなっているんですが、もう検討は終わっているのですか。

〈事務局回答〉提供ですね。

〈委員意見〉すべてのニーズに対して全部親切で丁寧に提供しますか。きついですよ。だから適切な、とかそういう言葉を入れておいた方が少し効果的にはなりますよ。

〈事務局回答〉はい、ありがとうございました。

〈委員質問〉別に文句は無いですが、1番と3番の内容は繋がっていくわけですか。

〈事務局質問〉人材育成ですか。

〈委員質問〉いや、ICT利活用と広域行政は繋がっていくわけですか。そういうことはないのですか。

〈事務局回答〉ICT利活用でむしろ行政サービスの方が変わっていくのではないかと。広域にもありますけれども、どちらかというと行政サービスの提供のやり方が変わってくるのではないかと思います。

〈委員質問〉支所は閉鎖していくことになるのでしょうか。そういうことにはならないのですか。

〈事務局回答〉そうですね。コンビニ交付を始めていますので、それが、その機能がその窓口があったほうがいいのかという検討も多分入ってくるとは思います。

〈委員質問〉先程、これ（総合計画の行に）に本当にしぼられるのかとお話をさせて頂いたのは、結局第3次の基本体系の中では、市民への行政の透明化であるとか、市民協働の推進という、市民の視点が入っていたのですけれども、これに合わせることによってその視点が抜けていて、行政改革が市民を全く無視した形の行政改革大綱でいいものか、というのが私の中で気になっています。そういう意味で私としては可能であれば、「5」というような形でやっぱり市民のことは一緒にしていいと思います。情報の透明化と、市民の参画という、その2つ一緒にしたほうがいいと思います。できれば「5」という形で入れて頂きたい。

〈委員質問〉「5」というのは、「4」の後に大きい「5」という形でという事ですね。

〈委員質問〉「4」の後に「5」という形で、もしもそれが無理であれば、例えば「2」の行政改革の推進の中の更に改革改善の推進の中で1つが見直しや調整という内部の問題ですね、それから民間活力の導入、それともう1つが市民視点を入れていくというような市民への情報提供と逆に市民からの協働を入れるというのを入れるか。本当は大項目でもいいくらいですが、もし無理であればそういう形でここにやはり是非書いて頂きたい。

〈委員意見〉確かに市民の視点が抜けているので、そこを反映させるには、一番穏便な落とし方としては、委員が言われたように「2」の行政改革の推進の中の行（2）改革改善の中の文言の1つとして、市民の声を反映し、というのをしっかり入れておく、ということでしょうね。

〈委員意見〉反映とか、協働とか、あと情報提供ですね。そういう落ちた部分ですよね。第3次行政改革大綱の中から落ちた部分をやっぱりここに入れて頂きたい。

〈事務局意見〉市民の視点とか、効果を反映するとか、市民の参画をお願いするみたいな形の文章ですね。

〈委員質問〉（2）ですか。

〈委員回答〉他にもあります。

〈委員意見〉すみません、市民の視点は（1）の方かなと思ったのですが。（2）はどちらかといえば、内部の行の改正について書かれてありませんか。

〈事務局回答〉委員のおっしゃられる通り、このまま行ってしまうと、プランを考えると、この政策1から10の内容があんまり入って来ない。私たちもそれでは市民も分かりにくいし、委員の皆さんもこういうところはやって欲しいことが有ると思いますので、そういったものについては委員もおっしゃった通りですね、行の2の改革改善で拾おうかなと思います。だから3次では協働とかそういったものが柱になっていたのですが、協働が（総合計画の）政策8の方に入っています。だからこの枠組みのままでいくと、協働の部分がでてこないの、協働の分についても行政改革大綱ではこのへんで外にある分は中に入れて、具体的なプランとしては載せていこうかな、と。行の2かもしくは行の4で拾えればと考えております。

〈委員意見〉7ページですかね。ここももう少し考えて書いて頂くということくらいしか今は言えないですね。

〈事務局回答〉作り直しをしまして、皆さんにお渡しをしたいと思います。

〈委員意見〉「計画推進のための行政経営」というものを第4次行政改革の基本体系として掲げているわけだから、策定の基本方針というのをそれに合わせますよ、というのをそのまま書かれていいと思います。文章にしたければ。検討しなかった8ページの②と③についてご意見いただければと思います。

〈委員意見〉非常に細かい事ですけれども、2番の第2段落の大綱・改革プランの計画期間は総合計画がスタートする翌年から、大綱の前期の最終年度の翌年ということですよ。

行政改革大綱の最終年度の翌年の最初の年度ですよね。

〈事務局回答〉そうですね。総合計画の前期計画の最後の次までということですね。

〈委員質問〉総合計画の前期と読めばいいということですか。

〈事務局回答〉総合計画は、また後期の見直しをしますので、それに合わせてまた行政改革も見直すべきところは見直す、ということです。

〈委員意見〉図で見ると一目瞭然で分かりますけど、文章にするとやっぱり分かりにくいから文章はもっと切っていいと思います。

〈委員質問〉大綱というのは行政が市民にサービスを提供するために、これをやるという話で、総合計画がサービスを提供される側の市民がどういうサービスを提供されるということを示したものですか。

〈委員意見〉総合計画は何かという観点を説明して頂いた方が良いかもしれないですね。

〈事務局回答〉総合計画は小城市が目指す小城市の将来のまちづくりの指針を決めるものです。もちろんそのためには行政、市民、事業所、みんなが関わって小城市を作っていくことを目標としています。そのために目指す将来像とかいうのが基本構想ですね。そのためにどういう施策を打ちましょうか、というのが先程説明した横長の表で、政策が10個あって、その後ろに基本事業があって、子育て事業等は、細かい一番下の事務事業という形になります。それを実施するために小城市の行政内部でどういうことをやっていけば、これが上手く事業を進めていけるのかということで、行政改革大綱を作って進めていこうという位置づけにしております。

〈委員意見〉説明してもらって、なんとなくイメージが出来ますが、例えばこの総合計画の政策体系を見た時に、私が何も知らないで見たらちょっと分からないかなと思います

〈委員意見〉総合計画はいろんな施策を今からやりますという基本になりますよね。例えば、誰が何か事業をしたい時に、総合計画に載っているものは事業化しやすいけれども、そうでないものはやはり事業化できないですよね。ただ、とはいっても社会は非常に大きく動く時代になってきているので、そこは時勢というか、市長さんがどういうふうに見えるかによって少し変わってくると思いますが、大きく逸脱は出来ませんよね。ある意味、憲法みたいなものです。こういう町を作りたいと、いろんな施策が出て来る訳だけれども、1つ1つの事業について、それが能率的に行われているのかをみていくのが行政改革だと思います。無駄はありませんか、という。そのための指針を作ったのがこの第4次行政改革大綱になります。PDCAですね。かなり総合計画の整合性を考えていっているんで、むしろチェックだけではなくて、円滑にそれを進めなさいというところまでこの大綱では入っています。

〈事務局意見〉その大綱がいわゆる行政改革、内部で方向性を決めて、細かくこういうことをやりますというのをプランといいますけど、それを作ってもう少し分かりやすくしていく。ここではあくまでも大きい方向性としての大綱になるので、構想という位置づけになります。

〈委員意見〉行政改革という、どうしてもチェック機能的な責任が頭に入ってくるが、大綱の中で、もう少し幅広く全体の総合計画が上手くいくような視点も組み込んでいくことを目的に、少し幅の広い大きな目標みたいなものを4つ掲げられたと思います。

〈会長〉全体を通して何かございますか。また何かお気づきの点があれば事務局の方に直接お伝えください。では、事務局のほうにお返しします。よろしくお願いします。

〈事務局〉皆さんどうも今日は、長時間審議をしていただきましてありがとうございます。今日ご指摘いただきました分につきましては、事務局の方で大綱の精査、文書の訂正等を行いまして、皆様に一度お送りさせていただきたいと思っております。その上で会議を開くかどうかというのを会長の方とも協議をさせて頂いて、開催したいと思えます。もし開催する場合でしたら、議会の方もありますので申し訳ないですが、10月頃になると思いますのでまたご連絡を差し上げたいと思っております。本日はどうも有難うございました。